

あまでうす

『展示会の様子』

1月14日から2月13日まで、地元岐阜信用金庫駅前支店内で、『和』をテーマに、掛軸、書、オリジナル掛時計合わせて8点の展示を無事に終える事ができました。

と同時に引き続き、13日から3月27日まで、後半の展示会を続行ということ。前のすべての作品を撤収し、新しく入れ替えて、オリジナル掛時計と写真合わせて8点を、ポツプアートの界の巨匠ア

ンディ・ウォーホルを意識したという感じで展示をしてみました。ウォーホルといえ、コカコーラやキャンベル缶（トマトの缶詰）、毛沢東で有名だが、以前に名古屋で開催された『ウォーホル展』を見に行ったときには、コカコーラの時計はなかったはずと思い、今回は、コカコーラをモチーフにして作った時計も展示。

期間中、信用金庫ということもあり、友達が見に来てくれるのはいいが、「一人では入りづらい」と4年前に開催したときに聞いていたので、一緒に見ることにした。展示を見た後は、

近くのカフェに入り、コーヒーを飲みながら作品の感想を聞いたり、作ったときの経緯などを簡単に説明した後は、2月17日から4日間、中央図書館で、

『シニア作品展』に3点（書、掛軸、家紋時計）を出品する話やらを、四方山話を交えて話しこんだ。その序でに10月には、岐阜OKBふれあい会館で毎年展示している『わたしの個展』に今年も出品することなども話した。話のなかで、「作ったすべての作品をどこに掛けてるの?」と聞かれたので、「玄関とか廊下とか台所や部屋に掛けてある。いわば、家で

毎日展示会をやっている様なもんだよ」と話し、その様子を写真で撮っているのを見せたりもした。

家紋時計が出た序でに、テレビの情報番組で見たのだが、家紋がいまブームになっていくという。明智光秀の生涯を描いた、NHK大河ドラマ『麒麟がくる』が始まっていることもあるのだろう。そこで調べてみると、明智光秀は『桔梗紋』、三英傑と言われる織田信長は『木瓜紋』、豊臣秀吉は『桐紋』、徳川家康は『三つ葉葵』であるが、わが家の家紋は何なのかは、今から30年前に、

あるきっかけで調べて分かっており、『亀甲に並び矢』という家紋である。これをネットからダウンロードして、和紙にプリントしたものを色紙に張りつけ、そこに時計のムーブ（機械）を取り付けて額にいれ、家紋時計として去年10月の『わたしの個展』に初めて出品し、いま開催している、岐阜信金でも前半に展示をした。

この機会に、自分の家紋が何であるか調べてみるのもいいかもしれない。

風地蔵新聞

らしくない

大橋 美紀

今日は2月9日、今朝ようやく雪が降ったのを見ました。犬の散歩に出たとき本当に細かい雪が風に舞っていました。でも、30分ほどでその雪も舞わなくなり晴れ始めました。この冬は、カメムシが多かったのでドカ雪が降ると昨年言われていたのですが、毎年必ず12月中には降る雪も降らず、今年に入っても暖かい日が続いたり、雪が積もることもなく、雪不足でウィンタースポーツを楽し

みにしている方も残念がっていらつしやることでしょうか。年々雪が降らなくなっているのは、皆さんも分かっていることなんです。子どもたちも普段は外遊びしない子でも雪が降り積もると外で遊ぶ子を見るのです。この冬はさっぱりそれをすることも少ないのも残念です。私の子どもは必ずワンシーズンに何度かドカ雪が積もり、雪遊びをしました。学校に歩いて行く間でも手に雪を取りぶつけ合いながら登校したり、体育の時間が雪合戦大会になる。2チームに分かれ、

雪を踏みラインを付けて投げ合う。中には、すぐく堅い雪玉を作ると手でギューギュー握り又、雪をつけギューギュー時間をかけて作っている間に雪玉を当てられ「アウト」と笑った。ちやう男の子もいました。家に帰ると、庭の雪解けした雪を一杯所に盛ってあった。祖父が「かまくらつくるか?」と私たち兄弟に言った。私はちや雪の山をスコップや足で固く固くして入り口を祖父が掘ってくれた。かまくらの中で何か

第197号

題字 岩瀬桃谷 発行 編集 風地蔵 白石 美帆 千503-0922 岐阜県大垣市馬場町85 エッ・おおご感想・俳句などてセー歌ちりま短待り

私たちは、お菓子をもってきてかまくらの中でおやつタイムしたり、すべり台を作ったり、大きな雪だるまにバケツを上にして、大きめの石を目にし、口には赤っぽい積み木を付けたりと、白ウサギを作ったりと、雪遊びを毎日していた事を思い出します。今じゃ考えられないですが、かき氷のイチゴのシロップもち出し、雪にかけてスプーンで食べたこともありました。母が小さい頃は、住んでいた家の近くに堤防があったので雪が積もると、家にある薄い板やビニールの上におしりをおろし、堤防で雪滑りをしていたそうです。そして頭には暴風頭巾（防寒頭巾）を被つ

ていたそうです。（学校に行くときも）時代です。子どもは、冬が来るのが楽しみで雪が降るとワクワクしていました。しかし、今年の冬は、冬らしくない冬の暖冬。この2、3日は、冬の気温になっていませが、一ヶ月も早く梅が満開になってい梅蔵のお庭の河津桜もピンク色のつぼみがふっくら咲き始めました。暖冬すぎると心配も出てきます。水不足だったり何か災害が起きるのではと不安もあります。この先日本の季節もどうなっていくのでしょうか?子どもが作る小さな雪だるまも見られなくなるのでしょうか?

読書感想文

佐藤 凱翔

今回初めて読書感想文を書く。今回またまた雨で仕事が出来なかった日、お母さんからこの本読んでみ！とすすめられた本が「太陽の子」読み方は「てだのふあ」。太陽が「てだ」子が「ふあ」いい響き。全366ページ、4時間半で読んだ。初めて読む分厚い本、細かい文字果たして読めるのだろうか。パパはゆっくりしつかり読まない頭に入らない。何ページか戻って読み直して「あー！そういうことね！」と一個づつ理解していく。ちょっとした謎解きしてたようにも思える時間だった。

灰谷健次郎作の本を3時間読んで、昼まで3時間続けてみた。3時間も集中したことに驚いた。学生の頃でできなかったことが出来るようになった。パパ、まだまだ成長中なのである。

小学6年生の女の子。ふうちゃんのお母さんお父さん。おじやん。風ちゃんのお母さん。さんがしているお店「てだのふあ、おきなわ亭」の常連客、ギンちゃん、片腕のろくさん、昭吉くんそしてギツチョンチョン。パパはギツチョンチョンが一番好き

だった。後々でたのふあおきなわ亭で動くことになるキヨシ少年。が主な登場人物だ。戦後30年の神戸の港町が舞台。沖繩から集団就職してきた人たちがたのふあおきなわ亭に通って沖繩の自慢や過去の話をしながら過ごしていく。そしてふうちゃんのお父さんは心の病気。ふうちゃんを中心に

昔はこんな感じだった。たのふあおきなわ亭に思ってた。がいきなり心の病気だとわかり、だからなのか！と納得できた。スタートがすごすぎた。パパには謎解きの話に思えて1話1話読み直しながら進んでいった。20話くらいにパパの好きなギツチョンチョンが、でたのふあおきなわ亭に後輩として連れてくるキヨシ少年。このキヨシ少年が話を大きくかきまわす。沖繩の子なのに自慢できる沖繩を知らず、オキナワだと差別を受け道を外しその日の日を生きるのについていっばい。いっばいな少年がふうちゃんとおきなわ亭に出逢い成長し生きていく。太陽の子で1番ドラマチックな物語をもったキヨシ少年。読み終わったパパがそう思った。どんなドラマかは言えない。言わない。キヨシ少年の謎解きは一番難しかった。ギツチョンチョンのこと、を少し書こう。人柄は、のんびりのほほんなムードメーカー。戦後に生まれ

父さんの病気、沖繩の過去、でたのふあおきなわ亭が回り回る話。第一話が一番衝撃的だった。沖繩の家族がピクニックに行きまんじゅしやげの花畑で琉球料理のお弁当を食べよう！としていた話かと思えばお父さんの病気が分かり、あれあれ？と思ひ読み直した。無愛想なお父さんだなあとみてた最初は。

たが誰よりも沖繩のことを好きで過去も受け入れみんなを愛しているスーパードライパー。ギツチョンチョンが主人公として読んでみるのもおもしろいかも。読んだことがない人は、まず普通に読み、2回目に謎解きをして読んで欲しい。読んで読むことある人は、ギツチョンチョンなど自分が好きな登場人物を中心に読んでみる。読んで欲しいから読んで欲しい。

川風

しらいしみほ

閏年29日の予定日まであと4日。1月19日から産休のりおん。毎日イライラをぶつけてくるんだらうと冷や冷やだった。3人目になってはじめて嬉しいと思つた。なんと、ごはんを作るようになったのだ。ただのごはんではなく副菜の小鉢がいく

つか並ぶ和食中心。

朝ご飯と、弁当にも夜の残りが使えてすごく楽になったし、種類があるせいで豪華になった。見ていると、朝のうちに夕飯の献立をある程度考えて、野菜を切ったり、芋や卵を湯がいたり時には、1, 2品サツと作っている。

安くて新鮮な旬の野菜をふんだんに使い、納豆を毎食だし、魚メイン。料理本やスマホでさつさと作り方をだし、ダシの取り方も覚え

これまで、お父さんに子どもたちにおかあさんの味と思ひ出すものを作ってやれ！と言われてやっとな毎週日曜や、ごくたまにそれ以外の日につくるくらいだった。

きっかけはかまざわさんが子どもたちに贈ってくれる絵本の定期便の中にたまに入ると大人のための本を読んでから。小児科医 澤田 敬著書「子どもと生きる・あまえ子育てのすすめ」だった。

それと、歯医者に置いてある「食卓の向こう側」をシリーズで読んだのも影響し

た。もちろん、保育園との関わりも大きい。いや、誰かが読んでよかった本を大人はまず回し読みをし、感想を言い合う。保育園での出来事も、体や心の発達も心配事のみでなく、ふだんから先生達から聞いた話

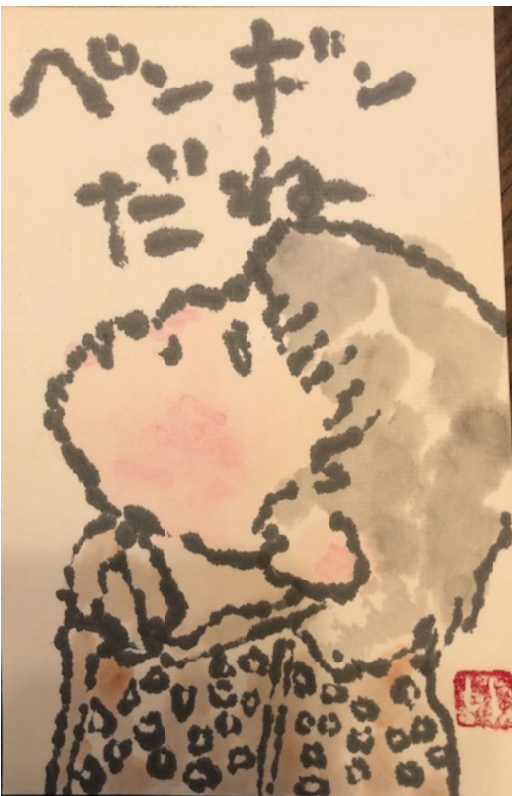
が我が家のごちそうだ。TVが無いのも影響しているだろう。全員が全員の表情を見、食べっぷりを見、話をする日々。仕事をしていると、そこまでできなかったことが

時間があることで一気に花ひらいた様だ。毎朝、ふたりで5千歩強を歩きながら、たまにいらつとするときもあるが、ごく落ちついている。

いま、世間では珍しくなった三世同居をはじめ丸二年。これから未熟な者達が、子どもたちを真ん中に肩寄せ合つてぶつかつたり話し合つたりしながら生きていく。

絵手紙

佐藤 李恩





九州研修& 慰安旅行 慰安編

鎌澤 宣子

小鹿田焼の里を後にして、らんちゃんとおちゃんの待つ保育園に急ぎます。 窯元さんでいっぱいお話を聞いてきたので時間が遅くなり、渋滞にもつかまり気が気じゃありません。 早くらんちゃん達に会いたいし、安全運転でいっていただきたいしと、心の中ではジレンマでした。 途中、今日の夕飯はりーちゃんお手製のにぎり寿司の予定で、社長行きつけの魚屋さんでさしみを買う予定だったけれど、途中で電話すると刺身はないのととで、変更となりました。そうこうしている間に保育園に着いて、1年ぶりのらんちゃんとおちゃんのご対面！

でかたまって動かなかった。らんちゃんたなと。らんちゃんは、去年は確か泣かされたけど、今回は少しだけかたまっただけで手をつないで帰りました。

イオンのゆめタウンの中にある呉服屋さんへ私への誕生日プレゼントをもらいに寄りました。着くと、らんちゃんがおしつこと。慌てて2人でトイレに駆け込んで、ちゃんとトイレまで我慢もするし、一人でできるし、さすがお姉ちゃんだなと感心してしましました。一度車まで戻って、りーちゃんとおちゃんへ先に帰って夕飯の準備を、私とらんちゃんと社長は、イオンにと別れて行動です。

らんちゃんは、ぐずりもしないで私たちが着物を見たりしている間ずっと待っていてくれます。ちゃんと場をわきまえてくれるのはすごいなと思います。

買い物も終わり、家路に急ぎます。次は隆男さんとかいと君です。

今頃、隆男さんはお酒を飲んでいるかなと想像しながら、らんちゃんとお話しながら帰ります。

社長宅に着くと、あおちゃんの出迎えます。そして心の中をやっぱりお酒飲んでたと思いつながら、隆男さんとかいとくんにご挨拶。荷物を部屋に置いてから、リビングへ。さっそく絵本をもってきて、「読んで！」攻撃で

す。 ちゃんと二人ともお膝の上に座って聞いています。本当に絵本の好きな子どもたち。心豊かな子に育っています。良い環境だなと思います。去年はあったテレビがなかったので、自然と会話が弾みます。だからあおちゃんもらんちゃんもお話しが上手です。大人の話もしつかり理解しているのが、よくわかります。

これってなかなかできないことです。きつと大人になっても人とのコミュニケーションができるなと思ってみていました。りーちゃんの手作りの夕食初めてかも。

なんだかあの小さかったりーちゃんが、しっかり主婦していると思うと不思議な感じでした。美味しかったです。 そしてお風呂に入っ出てくると、何やらへんなくも行きです。どうやら家族会議が始まっています。子どもたちも敏感に感じ取って、おとなしくしていました。私の顔をみるなり絵本をもってきて読んでアピールです。 いつものらんちゃん、あおちゃんです。二人ともべったりくついて読み終えろと又次の本を取りに行きます。らんちゃんはいいつも長編をもってきます。あおちゃんも負けじともってきます。来年にはもう一人増えています。うん、ひざは2つしかないが、どうなることやら。まあなんとかなるかと思っいます。このあとは、らんちゃんとおちゃんの着物をしつけていきました。

引退について

「小規模企業共済」というもの加入了。簡単に言えば自営業者の退職金の積み立て。20年毎月定額支払わないと赤字になる可能性もある。

よって自ずとじぶんの「定年退職」は69歳とした。キッパリ辞めたい。それが早いのか？遅いのか？32歳で独立。社会人になったのは23歳。69歳まで生きていられるかどうか、なんの保証もない。

去年は100軒お客様が増えた。20年後は2000軒か。とりあえず岐阜県で一位は間違いない。そして、引退。そして、おくだビルが建つ。。。

庭師 奥田良樹